

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		広島修道大学		設置者名		学校法人 修道学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成23年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
商学部	商学科	155人	高一種免(商業)	昭和38年	154人	3人	0人	0人
	経営学科	155人	高一種免(商業)	昭和38年	150人		3人	0人
経済科学部	現代経済学科	115人	中一種免(社会)	平成9年	144人	1人	1人	0人
			高一種免(公民)	平成9年			0人	0人
	経済情報学科	115人	高一種免(商業)	平成9年	131人	0人	0人	0人
			高一種免(情報)	平成15年			0人	0人
人文学部	人間関係学科 心理学専攻	55人	中一種免(社会)	昭和48年	60人	0人	0人	0人
			高一種免(公民)	昭和48年			0人	0人
	人間関係学科 社会学専攻	60人	中一種免(社会)	昭和48年	83人	4人	2人	0人
			高一種免(地理歴史)	昭和48年			3人	0人
			高一種免(公民)	昭和48年			1人	0人
	人間関係学科 教育学専攻	50人	小一種免	平成23年	59人	25人	—	—
			中一種免(社会)	昭和48年			24人	8人
			高一種免(地理歴史)	昭和48年			10人	0人
英語英文学科	110人	中一種免(英語)	昭和48年	126人	8人	8人	1人	
		高一種免(英語)	昭和48年			7人	0人	
法学部	法律学科	220人	中一種免(社会)	昭和52年	248人	5人	2人	0人
			高一種免(地理歴史)	昭和52年			3人	0人
			高一種免(公民)	昭和52年			2人	0人
	国際政治学科	80人	中一種免(社会)	平成3年	91人	1人	0人	0人
			高一種免(公民)	平成3年			0人	0人
			中一種免(英語)	平成3年			1人	0人
			高一種免(英語)	平成3年			1人	0人
人間環境学部	人間環境学科	145人	中一種免(社会)	平成14年	154人	0人	0人	0人
			高一種免(公民)	平成14年			0人	0人
入学定員合計		1,260人	合計		1,400人	47人	68人	9人

大学名		広島修道大学(大学院)		設置者名		学校法人 修道学園		
研究科・専攻等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成23年度)			
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
						実数	個別	
商学研究科	商学専攻	8人	高専免(商業)	昭和47年	2人	0人	0人	0人
	経営学専攻	12人	高専免(商業)	昭和52年	5人		0人	0人
経済科学研究科	現代経済システム専攻	8人	中専免(社会)	平成13年	3人	0人	0人	0人
			高専免(公民)	平成13年			0人	0人
	経済情報専攻	8人	高専免(商業)	平成13年	10人	0人	0人	0人
		高専免(情報)	平成19年	0人			0人	

人文科学 研究科	心理学専攻	5人	中専免(社会)	平成6年	1人	0人	0人	0人
			高専免(地理歴史)	昭和53年			0人	0人
			高専免(公民)	昭和53年			0人	0人
	社会学専攻	5人	中専免(社会)	平成6年	2人	0人	0人	0人
			高専免(公民)	昭和59年			0人	0人
			高専免(公民)	昭和59年			0人	0人
	教育学専攻	5人	中専免(社会)	平成6年	1人	0人	0人	0人
			高専免(地理歴史)	昭和59年			0人	0人
			高専免(公民)	昭和59年			0人	0人
	英文学専攻	5人	中専免(英語)	平成6年	1人	1人	1人	0人
			高専免(英語)	昭和53年			1人	0人
	法学 研究科	法学専攻	5人	中専免(社会)	平成6年	8人	0人	0人
高専免(公民)				昭和56年	0人			0人
国際政治学専攻		10人	中専免(社会)	平成6年	5人	0人	0人	0人
			高専免(公民)	平成6年			0人	0人
入学定員合計		71人	合計		38人	1人	2人	0人
備考	<p>・「研究科・専攻等の名称等」欄は、平成24年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>							

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成24年7月3日（火）

実地視察大学：広島修道大学

実地視察委員：大坪治彦委員、岸田正幸委員、関根明伸委員

【全般的事項】

- 教育課程について、一部、教職課程認定基準を満たしていない点を確認されたが、教職課程全体については、教職指導等も全学的に取り組んでいる様子が見受けられ、良好に運営されている。
- 毎年の教員免許状取得者が極めて少ない又は全くいない課程を置く学科又は専攻が複数確認された。教職課程の履修希望者に対して、教職への意志確認を行った上で、少数精鋭で教職課程を履修させるとのことであるが、教員免許取得者数及び教員採用者数が継続して少ない場合、当該学科等における教員養成の質の確保が困難になることが予想されるため、大学全体の教員養成の質の確保の観点から、教職課程委員会を中心に、教職課程履修者の少ない学科等に所属する学生に対する教職指導の実施方法等の工夫を図るよう努めること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 教職課程委員会が中心となって教職課程の運営に取り組んでいる。引き続き、現在求められている教員としての資質能力を具現化するための全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように努めること。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 教職に関する科目について、教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスからは判断できない科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うとともに、シラバスにおいて「含めることが必要な事項」が含まれていることが明確にわかるようにするため、教職課程委員会を中心に、各授業科目の内容を確認する仕組みを整備すること。
- 教職に関する科目における「各教科に関する指導法」において、全15回の講義中、14回目の講義で、初めて指導案に関する内容を扱う授業が一部確認されたが、教科指導は、生徒指導等と並び学校教育の根幹をなすものであることに鑑み、指導案の作成を含めた模擬授業やロールプレイングの実施等を通じて、学校における児童・生徒の学習意欲の喚起を図るようなものとなるよう工夫すること。

- 法学部国際政治学科に置かれている、中高（英語）の課程については、学科の目的と教科に関する科目との関連性が見えづらい。本来、教科に関する科目は学科等における学位を取得するための専門科目の一部であり、教職を志す学生は、教科に関する科目とその他の学位を取得するための専門科目を取得することによって、教科の専門性を高めていくことが期待されている。このため、教職課程の編成にあたっては、学位プログラムとしての専門科目と教科に関する科目の関連性に十分留意しながら、その編成を行うよう努めること。
- 教科に関する科目については、自学科等での開設を原則としている一方、教職課程の科目内容の水準の維持・向上等を図る観点から、各科目区分の半数までは他学科の科目を充てることが可能としているところであるが、一部の課程においては、科目区分の半数を超えて他学科等の科目を充てていることから、それら課程は、基準を満たすように修正すること。
- 平成25年度から教職実践演習が開講されるが、教職を志す学生が、教職課程の履修を通じて、教員として必要な資質能力の確実な確認が行われるよう、履修カルテを効果的に活用した授業展開が行われることを期待する。

3. 教育実習の取組状況

- 遠方の学校に教育実習に行く学生に対しても、必ず訪問指導を実施しているなど、実習期間中の指導についても丁寧に行っている。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職を志す学生のほとんどが、地元教育委員会が実施する「大学生による学校支援活動」等を通じ、学校インターンシップを経験している。教職に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことは重要であることから、引き続き、地元教育委員会・学校との連携・協働を進め、学校現場体験等の多くの機会を充実していくことを期待する。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 教育委員会・学校と教員養成を担う大学との連携・協働による教員養成の高度化が求められている中で、大学が、教職を志す学生を学校現場等に積極的に送り出すために、地元教育委員会や学校等と連携をし、コーディネートすることが必要となってきた。今後、教職課程委員会を中心に、学校ボランティアや児童館等での活動など、教職を志す学生が、教育実習以外にも学校現場等での体験機会を得ることができるような環境の整備を進めていくことを期待する。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設・設備については、全般的に、良好に整備されている。
- 特に、教員を志す学生のための専用の学習室を整備し、卒業生の教育実習の記録や指導案を蓄積するなどの工夫が行われている。
- 図書館においては、視聴覚教材やCD教材などのデジタル教材についても今後充実が図られることを期待する。

7. その他特記事項

- 特になし。